

跡地からつながり、生まれるコミュニティ

旧上瀬谷通信施設跡地開発

□コンセプト

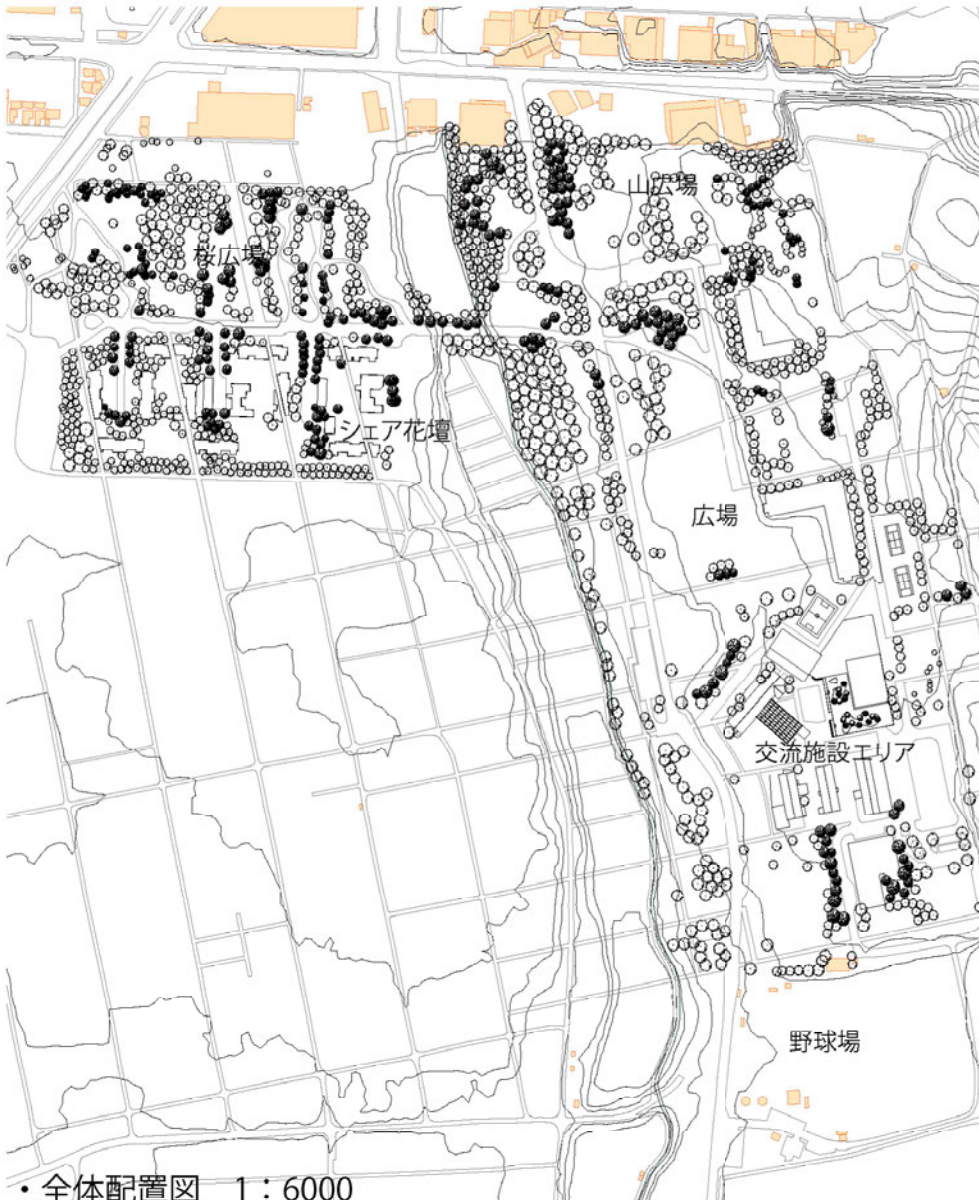
私は今回の設計では「痕跡」「つながり」をコンセプトに計画した。この敷地は第二次世界大戦後に米軍に接収され、強い制限により満足のいく生活が出来なかった場所になっています。また、返還後もずっと閉ざされた場所になっています。そこで今回、リノベーションなどで「痕跡」を残してこの先も歴史が伝わるようにして、その中で地域住民が自由な活動が出来るようにし、違う目的で来た人同士に「つながり」が生まれる様にした。

□プログラム

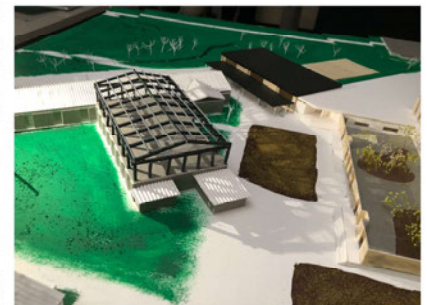
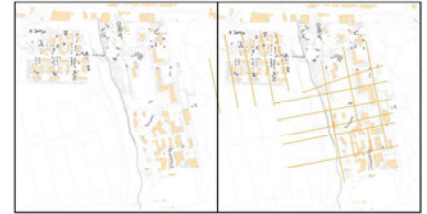
この敷地は周辺敷地と切り離され閉ざされているため、敷地と周辺敷地に「つながり」を持たせるために周辺の畑のグリッドを計画地まで伸ばし、既存の道と絡むようにランドスケープを計画した。また、グリッド道が既存の基礎に重なるようにして重なる部分は道になり、分断された基礎はシェア花壇として利用できるようにした。そして、一部の場所でリノベーションなどで歴史の「痕跡」を残して活動施設を設計した。



矢野 順也
建築設計計画 | 研究室

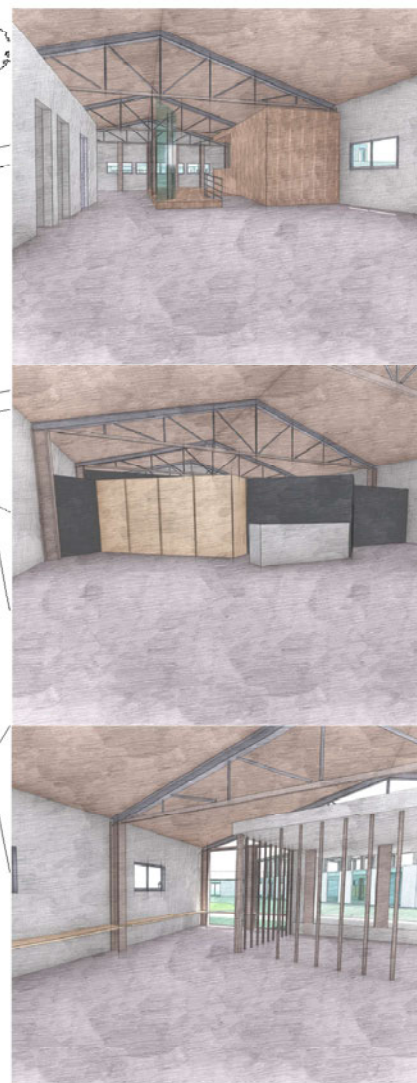


・全体配置図 1：6000





・全体配置図兼平面図 1:1200



□デザイン

今回の計画では、この土地が米軍基地跡地だった歴史を残すためにリノベーションや既存の外壁だけを残し、その周りに体育館などを設け元は内部、内壁だったのが外部、外壁となるようなデザインにした。これのできる「痕跡」からこの場所の歴史を残していこうと考えた。

武道場は直売所と一体感を出すために外壁を木のデザインにした。

